

## 令和7年度 学校評価アンケート（前期）の考察

学校と家庭が二人三脚で子どもを教育していく中で、取組の是非を問うのではなく「子どもの姿・思い」から学校と家庭の取組を検証・ステップアップしていきたいと思い、本年度、質問項目を見直した。

1 1項目から見える現状分析と今後の方向性は以下の通りである。

### 1 学校教育目標の認知

生徒、保護者共に周知度が50%に留まっている。「ふるさと」「幸せな未来」という言葉は、本校がこれから力を入れて取り組んでいく起業家教育のキーワードでもあり、折に触れて発信していきたい。

### 2 地域協育・地域貢献

保護者は肯定的な回答が概ね90%に達しており、意識が極めて高いが、生徒の参加度が40%程度に留まっている。起業家教育のカリキュラム化、アフタースクール・プロジェクトの活性化により、地域、保護者の方との協力体制を築き、生徒に地域活動への参加の意義をもたせ、参加を促していきたい。

### 3 ふるさと創生の志

生徒は肯定的な回答が概ね80%に達しており、意識が高い。本町は存続の危機が迫っており、子どもたちが周防大島町に居ながら、豊かな生活を送ることのできるための教育を展開することが本校の使命と認識している。そのため、起業家教育を推進し、本町の未来を支え、切り拓く生徒を育成していきたい。

### 4 「わかる」「できる」授業

80%の生徒が、授業で「わかった」「できた」と感じている。本年度、授業の導入・教材（教具）の工夫について校内研修に取り組み、生徒の知的好奇心を揺さぶり、授業参加を促すとともに、ユニバーサルデザインの視点からの授業づくりを行っており、現時点での評価を励みに引き続き取り組んでいきたい。

### 5 家庭学習

家庭学習に取り組んでいると回答した生徒は70%程度、保護者は60%程度に留まっている。起業家教育を推進し、将来を見据えた「学びの必然性」を感じることで、生徒は授業に向かい、家庭学習が授業と授業をつなぐという好循環を生み出していきたい。それと共に、家庭学習の在り方について検討していきたい。

### 6 学校行事・委員会活動・係活動

80%を超える生徒が学校行事・委員会活動・係活動で達成感・充実感を味わうことができている。生徒会活動において、3年生を中心によりよい学校づくりに向けての意気込みが感じられる。また、各学年行事や新規の行事である親子ふれあいスポーツ大会の開催が生徒の気持ちを高めていると思われる。

### 7 学校のきまり

90%の生徒が学校のきまりを守り、生活していると回答している。本年度、生徒会スローガンとして「改」を掲げ、多くの生徒自身が規範意識を高めようとしている。全校生徒の規範意識の高揚をめざし、生徒会と教職員が歩調を合わせて根気強く呼びかけ・指導を行っていきたい。

## 8 いじめ

90%の生徒、保護者がいじめをしていないと回答している。本校の生徒は、自分の感情に素直で瞬発力があるが、陰湿さは感じられない。日常の小さなトラブルがいじめに発展することがないよう、その都度状況の把握・指導を行い、未然防止に努めていきたい。

## 9 教育相談

80%の生徒、保護者が相談できる先生がいる、学校に相談しやすいと回答している。生徒、保護者からの相談・問い合わせに対し、経緯や困り感、疑念を傾聴し、丁寧な説明とスピード感のある対応を心掛けていきたい。

## 10 柔軟性・体力の向上

70%の生徒、保護者が取り組んでいると回答しているが、本校は体力テストにおいて全国平均、県平均を下回る結果となっている。本校の現状としてバス通学生徒が多く、外出時も自家用車やバスを利用することが多いなど、日常的に運動不足になりがちであることを踏まえ、部活動をはじめ保健体育の授業において柔軟運動や補強運動を継続的に取り入れていきたい。

## 11 睡眠・食事

概ね90%の生徒が取り組んでいると回答している。近年ではスマートフォンの普及や SNS 等の発達に伴って生活が乱れる生徒が多いため、健康・体力的な視点からもメディアとの向き合い方について指導を工夫していきたい。